

作家の現在 これまでとこれから

State of the Artist: So Far and From Now On

石内都 志賀理江子 金村修
藤岡亜弥 川田喜久治

Ishiuchi Miyako Shiga Lieko
Kanemura Osamu Fujioka Aya
Kawada Kikui



2025年10月15日(水)―2026年1月25日(日)

東京都写真美術館 2階展示室 恵比寿ガーデンプレイス内

主催：東京都、東京都写真美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

協力：株式会社カラーサイエンスラボ、株式会社写真弘社、有限会社フォトグラフィーズラボラトリー、PGI

開館時間：10時―18時（木・金曜日は20時まで）*入館は閉館の30分前まで 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝祭日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始（12月29日―1月1日）
観覧料：一般700（560）円／学生560（440）円／高校生・65歳以上350（280）円

*（ ）は有料入場者20名以上の団体料金。*中学生以下および障害者手帳をお持ちの方とこの介助者（2名まで）は無料。
*第3水曜日は65歳以上無料。1月2日（金）、3日（土）は無料。

*事業は諸般の事情で変更することがございます。各種割引、オンラインチケット等を含む最新情報は当館ウェブサイトにて確認ください。
上：石内都《ひしま》#45 donor: Sachiko, M. 2025年 発色現像方式印画 作家蔵 ©Ishiuchi Miyako, courtesy of The Third Gallery Aya
下：藤岡亜弥《川はゆく》より 2013―2017年 発色現像方式印画 東京都写真美術館蔵

作家の現在 これまでとこれから

State of the Artist: So Far and From Now On

東京都写真美術館は2025年に総合開館30周年を迎えました。1995年の総合開館から30年の間にも様々な表現が誕生し、社会の変化とも呼応しながら、写真表現の歴史は途切れることなく更新されています。

「作家の現在 これまでとこれから」と題した本展では、国内外で活躍が目覚ましい作家の現在の活動を、これまで当館に収蔵された作品等と合わせて紹介します。進行形の作家活動に触れる機会を通し、作品理解を深めると共に、これからの表現の可能性を探ります。

石内都 (1947-)

群馬県生まれ。神奈川県横浜須賀野市で育つ。2005年、母親の遺品を写した〈Mother's〉で第51回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家に選出。2007年には被爆者の遺品を撮影した〈ひろしま〉を発表し、現在も継続している。2014年にはハッセルブラッド国際写真賞を受賞。2027年、ヨーロッパ写真館(MEP)個展予定。

志賀理江子 (1980-)

愛知県生まれ。『Lilly』『CANARY』で第33回(2007年度)木村伊兵衛写真賞を受賞。2008年より宮城県在住。2011年、東日本大震災で被災しながらも制作を続け、翌年「螺旋海岸」(せんだいメディアテーク)を開催。「ニュー・フォトグラフィー 2015」(ニューヨーク近代美術館)、「ヒューマン・スプリング」(東京都写真美術館)など、展覧会多数。

金村修 (1964-)

東京都生まれ。初期より都市の風景をモノクロで撮影。1996年にはニューヨーク近代美術館で開催された「ニュー・フォトグラフィー 12」展に出品するなど、国内外で高い評価を得る。2000年、第19回土門拳賞受賞。2014年、第39回伊奈信男賞受賞。

藤岡亜弥 (1972-)

広島県生まれ。2007年、文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨークに滞在。のちに広島市内に転居し、日常を通して「ヒロシマ」を見つめ撮影した『川はゆく』(赤々舎)などにより、第43回(2017年度)木村伊兵衛写真賞受賞。

川田喜久治 (1933-)

茨城県生まれ。1959年、写真家によるセルフ・エージェンシー「VIVO」を共同設立。1965年、戦争の傷跡や記憶をたどる『地図』(美術出版社)を発表。「ニュー・ジャパニーズ・フォトグラフィー」展(ニューヨーク近代美術館、1974年)や「アルル国際写真祭」(2025年)をはじめ、国内外で多数の展覧会に参加。2004年、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



1



2

関連イベント

ーアーティスト・トーク

1月11日(日) 14:00-16:00

登壇者: 志賀理江子(出品作家)

会場: 東京都写真美術館1階ホール

定員: 190名 参加費: 無料

*当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

ー図書室夜話

出品作家が、自身の作家活動に影響を与えた図書や写真集、お気に入りの本等について語る特別プログラムです。

① 12月4日(木) 18:30-19:50 講師: 藤岡亜弥(出品作家)

② 12月12日(金) 18:30-19:50 講師: 石内都(出品作家)

会場: 東京都写真美術館図書室

定員: 各回7名(事前申込制、申込多数の場合は抽選)

参加費: 無料

*申込方法等の詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

ー出品作家による映像作品の上映+アフタートーク

1月10日(土) 14:00-17:00

登壇者: 金村修(出品作家) ×

倉石信乃(明治大学教授、近現代美術史・写真史)

会場: 東京都写真美術館1階ホール

定員: 190名 参加費: 無料

*当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

ー担当学芸員によるギャラリー・トーク

① 10月24日(金) 14:00-

② 11月14日(金) 14:00- *手話通訳付き

③ 12月5日(金) 14:00- *手話通訳付き

④ 1月9日(金) 14:00- *手話通訳付き

*当日有効の本展チケットまたは展覧会無料対象者の方は各種証明書等をご持参の上、2階展示室入口にお集りください。

事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



3

1. 志賀理江子、参考図版 Photo: artist, ©Lieko Shiga, Courtesy of the artist
2. 金村修(Untitled)〈本日(の)日本〉より 1993年 セラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵
3. 川田喜久治〈昭和最後の太陽、昭和64年1月7日〉〈ラスト・コスモロジー〉より 1989年 セラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 TEL: 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。

当館には専用の駐車場はございません。お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。